

皆さん、こんにちは。私は山形大学農学部に4月から短期留学生しているモイセスと申します。

南米のペルーから来ました。東京まで飛行機で26時間ぐらいいかりました。少し遠いですね。海外に行ったら、世界の大きさを実感します。このすごく広い世界には特別な文化が見つけられます。

世界中には色々な考え方や見方があります。各々の文化の違いがあつてこの地球が存在するのではないのでしょうか。だから、この違いのおかげで、私たちの世界が興味深い場所だと思えます。

そこで、今日はペルーと日本の代表的な違いをテーマに取り上げてみました。



奇妙なことではあります。要するに、私たちは考えや感情を公に表現するのは恥ずかしいことだとは思っていません。日本を表す言葉は、私にとって、平成、荘厳、しつこいです。日本社会では、人々の間に尊敬と共感があります。日本では、ペルーよりも身体的接触はすつと少ないですが、気持ちや伝える方法はいろいろあります。例えば、「頑張るって!」や「気を付けてください」などの表現は、他の人を励ましたり、勇気付けたりします。

学校や大学での働き方も、西国で全く異なっています。日本では、階層構造が非常に強いです。例えば、大学で「先輩―後輩」のような関係があります。この関係

は、人々の関係を尊重し、友好的にします。対照的にペルーの学校では、社会関係はより緩やかで階層的ではありません。日本とは違って、ペルーの大学では「先輩―後輩」の関係がありません。それは私が日本について最も驚いたことのひとつ

このような根本的な考えの違いが、色々な行動につながっているのだと思います。このスピーチの内容は、一般的な話であり、もちろん日本人でもルーズな人や感情を表現する人いれば、ペルー人でもきっちり時間を守る人や感情を表現しない人もいます。でも、国や文化によって、同じ「時間にルーズ」や「感情」の考えがそれぞれの国で作られるのだと理解してもらいたいと思つて話したいです。留学生として、住んでいる国の文化を理解し尊重することが最も重要だと思います。

大賞 日本人とペルー人の 文化の違いについて

モイセス・オルテガ

日本語スピーチコンテストin庄内

結局、ことわざで日本でも「所変われば品変わる」と言うではありませんか。ご清聴ありがとうございます。